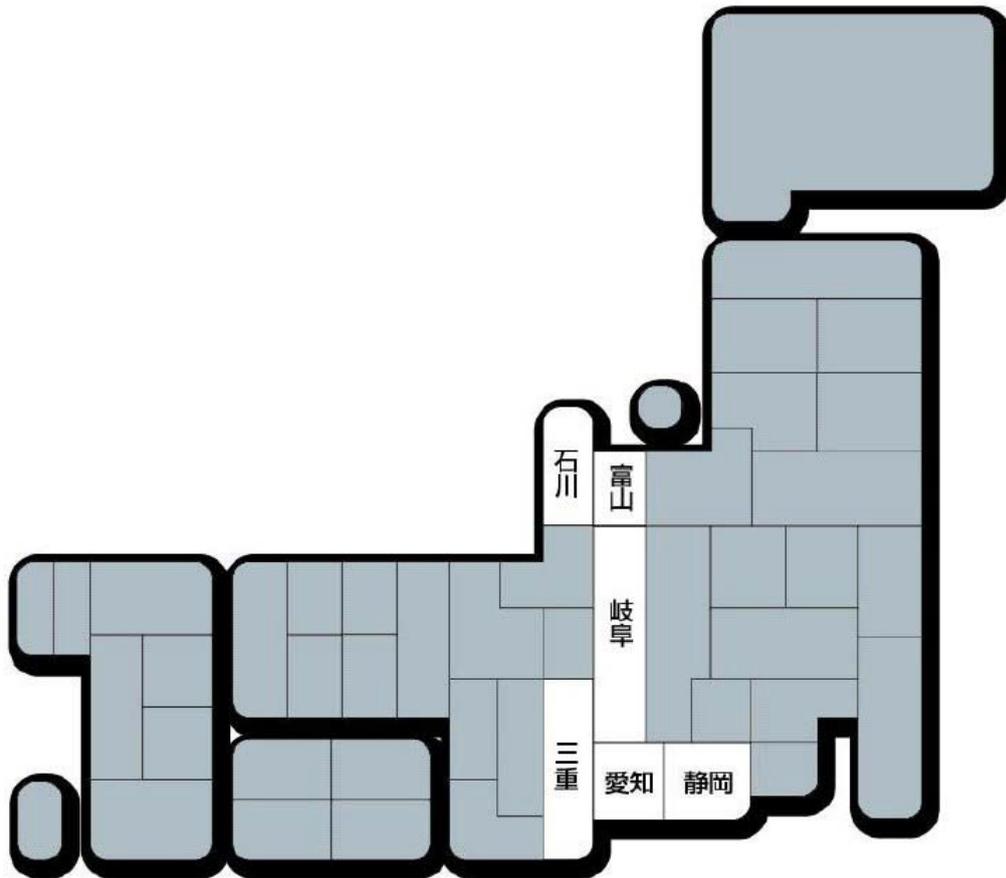


東海北陸国立病院薬剤師会

会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.29

2023.3

目次

【巻頭言】			
静岡医療センター	竹内 正紀	1
【施設紹介】			
北陸病院	伊藤 文隆	3
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
静岡医療センター	平島 学	4
○業務推進委員会			
名古屋医療センター	井上 祐貴	13
○学術研究委員会			
静岡てんかん・神経医療センター	山本 吉章	17
【編集後記】		18

THP 会誌の巻頭言のバックナンバーを拝見すると、これまでお世話になった先生方の名前がずらりと並んでいます。私が薬剤師になって三十数年、多くの先生方に支えられて今まで仕事を続けられたことに改めて感謝の気持ちで一杯です。

私が薬剤師になった 1990 年（平成 2 年）頃は、病棟薬剤師業務として服薬指導業務（付けられた診療報酬点数から 100 点業務とも呼ばれていました）がスタートした時代でした。当時は薬剤師が病棟に何をしに来た？何ができる？という目で見られることが多かったことをよく覚えています。

あれから 30 年、病院薬剤師を取り巻く環境が大きく変わっていることを実感しています。薬剤師の病棟常駐が定着し、調剤部門を中心としたいわゆるセントラル業務は効率化、タスクシフトが進んでいます。活動範囲は病棟だけに留まらず、手術室、外来部門、保険薬局との連携などにも職域を拡大し続けています。

私の場合、自身の都合により国立病院を一旦退職し、民間病院での薬局長、保険調剤薬局での管理薬剤師として各々約 5 年ずつの勤務を経て、再び NHO に入職するという特異な経歴（出戻り）を持って働かせていただいています。今から 20 年ほど前、自らの決断で理想を目指して民間に出てはみたものの、厳しい現実と向き合うことになりました。国の目指す理想の医療を提供、実現するために組織された NHO とは違い、「自分の給料は自分で稼ぐこと」を叩き込まれる民間とは大きな隔たりがありました。民間での 10 年間、理想の病院薬剤師、保険薬剤師を目指して、自分なりにやり切った感がありますが、民間の現状に衝撃、洗礼を受けて、恥ずかしながら帰ってきてしまいました。懐の深い NHO に再び迎え入れていただいて、今では NHO がいかに恵まれた環境で仕事ができているかをお伝えすべく、後輩の薬剤師たちを導くことが私のミッションだと思っています。

個々の専門的な指導は現場の先生方にお任せしていますが、頼もしい薬剤部スタッフからの刺激に毎日触発され、私の立場としては気持ちよく仕事ができる職場環境づくりやリクルート活動に努めています。全国に薬学部が増設され、薬剤師が世の中により多く輩出されるようになったはずですが、様々な理由により悲しいかな病院薬剤師は敬遠される傾向にあると聞きます。多職種の医療チームでの活動を通して、様々な経験ができる病院は、薬剤師のキャリア形成の場として必須だと感じています。『**まずは病院薬剤師として働くべし！**』です。NHO は、広域の転勤があることでネガティブなイメージを持たれがちですが、様々な地域で、規模の異なる特色ある施設で働くことで見聞が広まり、相談できる多くの仲間、人脈を育むことができる魅力ある組織だと思っています。嬉しいことに NHO には高い志を持った薬剤師の入職割合がとても多いと感じています。しかし、多くの先輩、後輩薬剤師が離職していったことも事実です。NHO は薬剤師を育てて外へ送り出すことに力を注ぐ教育研修施設ではありません。育てた人材は育った組織で活かされるようであればなら

ないと考えています。

これからの THP 薬剤師のために、静岡医療センターでは教育研修にも力を入れており、国立病院機構薬剤師能力開発プログラム (NHO-PAD) を活用して、若手の教育に熱心に取り組んでいます。今年度に入職した3名の新人薬剤師をととても大切にしてくれている先輩薬剤師の姿を見ていると、自然と嬉しくなり、私もサポートに加わりたくになります。現在もコロナ禍の影響で、歓迎会や親睦会などのイベントができないことがとても残念ですが、近い将来スタッフの努力が報われ、労いの会を催したいと密かに期待しています。

新たな業務展開に必要な病院薬剤師の人員確保に苦勞していますが、薬剤師のチーム医療への参画オファーが多くあり、薬剤部に対する強い期待を感じます。私の亡き恩師の言葉である『**薬あるところに薬剤師あり!**』を実践して、これからの病院薬剤師はアンサング(縁の下の力持ち)ではなく、もっと目に見える薬剤師を目指して存在感を示していきたいと思えます。臨床現場で専門知識を生かし、チーム医療の架け橋として活躍できるよう、病院薬剤師の育成にも力を入れて参ります。微力ではありますが、精一杯務めさせていただきますので、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

【施設紹介】北陸病院

薬剤科長 伊藤 文隆

北陸病院は富山県西南部の南砺市に位置し、穀倉地帯の砺波平野に連なる田園に包まれており、遙かに八乙女山、医王山を仰ぐ、広大な敷地（東京ドーム約4個分）には正門から続く桜並木や柿や栗などの果樹園、芝生のグラウンドなどが、四季折々の自然に抱かれた閑静で空気清澄な医療空間を成しています。

その歴史は、陸軍傷痍軍人療養所から始まり、戦後は結核医療に貢献、現在は精神科病棟（一般精神、認知症、医療観察法）172床、神経難病病棟50床、重心病棟50床の計272床からなり、精神・身体・知的の三障がい重複して有する方々の政策医療を中心に、富山県内の措置入院や精神科救急の基幹病院としても機能しています。



また、富山県 DPAT（災害派遣精神医療チーム）、富山県認知症疾患医療センターの指定を受けています。

交通アクセスは、JR 城端線の城端駅よりタクシーで約5分、東海北陸自動車道の福光インターより車で約5分です。

薬剤科のスタッフは常勤薬剤師3名と非常勤薬剤助手1名で、調剤業務、薬剤管理指導業務の他、医療安全や感染対策、栄養サポート、褥瘡対策などのチーム医療も行っています。外来患者は1日約45名、外来処方箋は1日約20枚、院外処方せん発行率は徐々に増えていますが25%程度です。

東海北陸管内では珍しい電子カルテが導入されていない施設で、手書きカルテ・手書き処方箋が運用されています。

注射調剤は一施用毎の払出しを行っていますが採用薬が少なく調剤量はごく僅かです。一方、内服調剤は、入院外来を問わず散剤の秤量や一包化指示の処方が多いため日常業務の多くを調剤業務が占めています。

電子カルテについては、導入予定が2年後にあり、各ベンダーのプレゼン等が始まったところで、今後、準備作業が本格的になっていくでしょう。

医療観察法病棟では、多職種チームによる教育プログラムが行われており薬剤師も薬の集団教育に関わっています。

また、富山県認知症疾患医療センターの指定を受けていることから、地域における認知症疾患の保健・医療・介護サービスの向上を図る目的の一環として、医療機関等において認知症患者の看護に従事する看護職を対象に「認知症ケア研修会」を開催しており、医師・看護師・精神保健福祉士・管理栄養士・臨床心理士とともに講師を務めています。

教育研修委員会の活動報告(令和5年3月)

教育研修委員長
平島 学

令和4年度は教育研修委員会として初めての試みが多い年度となりました。

研修会に関して、業務研修委員会と教育研修委員会との合同企画であるMBTI研修会をTHPとして初の外部委託研修として、10月(名古屋)と1月(金沢)に開催しました。本研修は、教育研修委員会として新型コロナウイルス感染症流行後、初めて現地開催の研修会となりました。名古屋開催11名、金沢開催9名の合計20名に受講していただきましたが、大変好評で有意義な研修会となりました。今後、新型コロナウイルス感染症が第5類となった際の研修会の開催方法について、Web開催と現地開催のメリット・デメリットを踏まえ、いずれも視野に入れて検討・準備を進めていきたいと思っております。

また、NHO-PADを用いた採用薬剤師の自己評価プログラムの運用を開始しました。教育研修委員会のNHO-PAD小委員会を中心として、有効で評価のしやすい項目をピックアップし、2022年7月と2023年2月の2回の自己評価、他者評価を実施いただきました。集計が完了次第、採用薬剤師の知識・技能として不足している部分を中心に各施設へフィードバックを行う予定ですので今後の指導や教育にお役立てください。

さらに、初めての試みとして薬学部5年生を対象としたWebセミナーを開催しました。「けっこういいぞ!! NHO 徹底解剖 国立病院機構で働く病院薬剤師」と銘打って、様々な分野で活躍しているTHPの先生方からチーム医療の経験談から産休育休、福利厚生、給与制度に至るまでリアルな内容をお届けできました。東海北陸に限らず、Webの強みを生かして全国から70名が参加し、シンポジウムからパネルディスカッションを通して、NHOの魅力をお伝えすることができました。

今回は、MBTI研修会の様子と薬学生を対象としたセミナーについてご紹介したいと思います。

◆ 令和4年度 MBTI 研修会

第1回 MBTI 研修会

開催日: 令和4年10月1日(土)

開催場所: 名古屋医療センター

受講生 : 11名

第2回 MBTI 研修会

開催日: 令和5年1月28日(土)

開催場所: 金沢医療センター

受講生 : 9名

MBTIは人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。外部委託研修として開催し、MBTIの認定ユーザーである国立がん研究センター中央病院の大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていただきます。これらの作業を通して、自分と他者との考え方やものとりえ方が明らかに違うことを体験することができ、非常に興味深い発見がありました。1月の金沢開催のMBTI研修会では10年に1

度の寒波の影響で大雪となり、開催が危ぶまれましたが、無事に開催することができました。久しぶりに現地で顔を合わせてできる研修会は何とも言えない感動があり、得られるものが大きな研修となりました。

また、本研修の継続について検討するために、受講生に対して受講前、3か月後、6か月後にNH0-PADから項目を抜粋して作成したアンケートを実施しました。今後は開催場所・時期・頻度、対象となる受講生について検討を行いたいと思います。

第1回 MBTI 研修会講義風景



第2回 MBTI 研修会講義風景



第1回 MBTI 研修会グループワーク風景



第2回 MBTI 研修会グループワーク風景



第1回 MBTI 研修会受講生全体写真

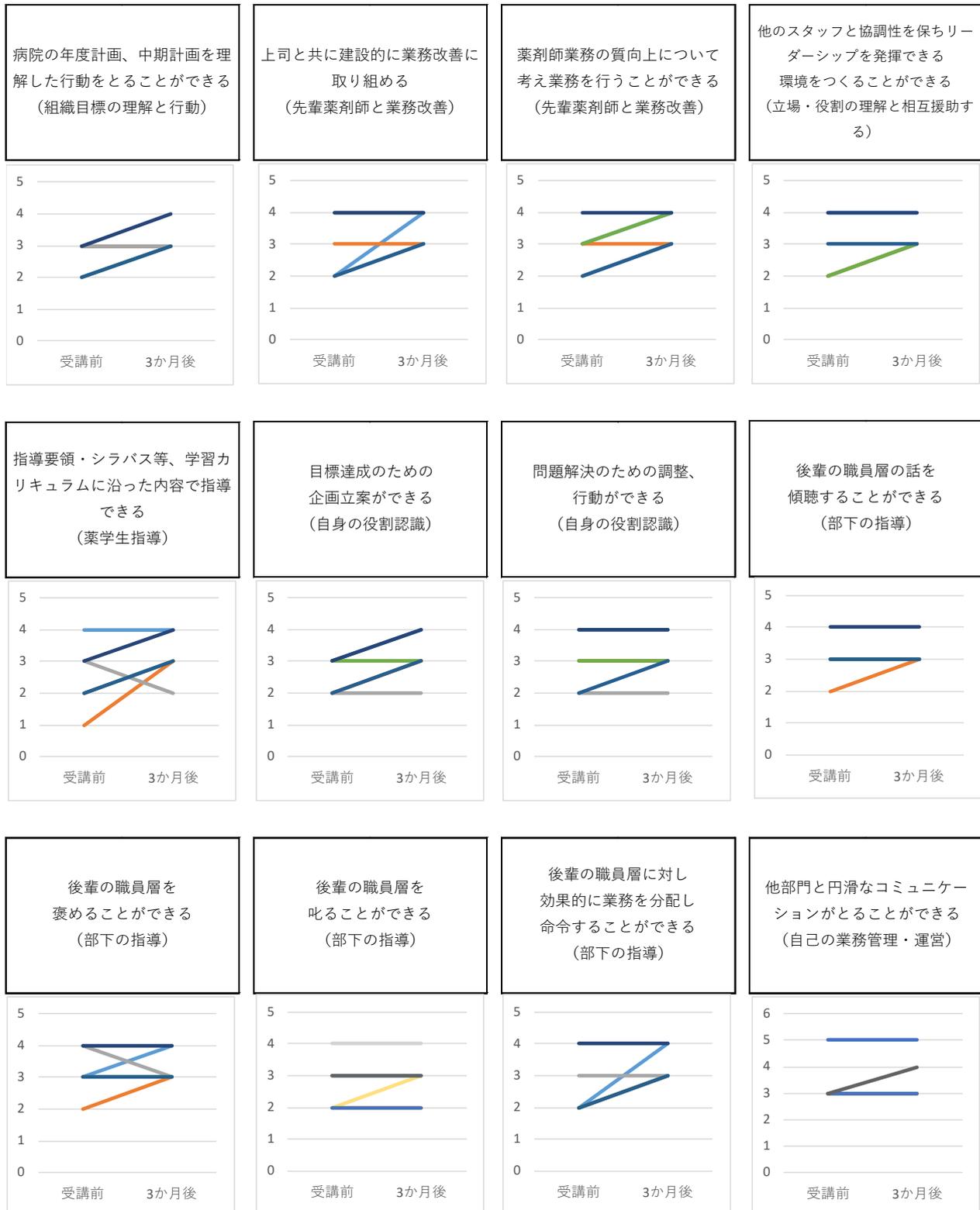


第2回 MBTI 研修会受講生全体写真

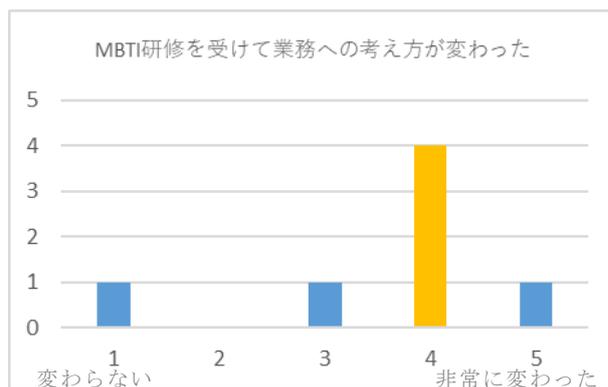
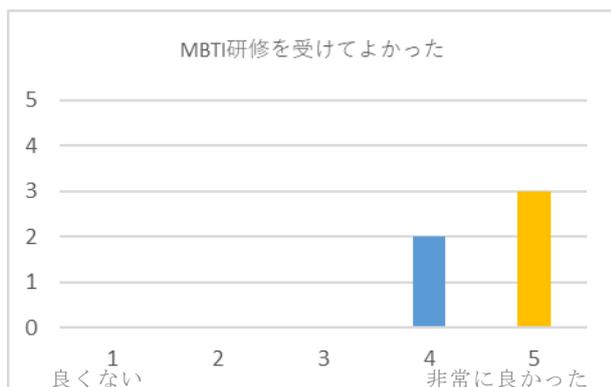


アンケート結果

第1回 MBTI 研修会(3か月後まで完了)のうち受講前および3か月後のアンケートに回答のあった6名について、上昇傾向が見られた項目のアンケート結果は以下の通りです。



MBTI 研修会の参加についてのアンケート結果は以下の通りです。



アンケートの結果より、MBTI 研修に参加することで人の多様性や自分の心への理解が深まり、上司・先輩・他部門との協同した業務やコミュニケーションおよび後輩・学生指導に対する対応の面で円滑に進められるようになる傾向があることがわかりました。また、MBTI 研修を受講してよかった、業務への考え方が変わったという意見が多く、受講生からも好評でした。今後は開催場所・時期や受講対象を検討した上で業務推進委員会とともに研修会の継続について検討していきたいと思ます。

◆ けっこういいぞ！！NHO 徹底解剖 国立病院機構で働く病院薬剤師

開催日：令和5年2月17日(金)

開催方法：Microsoft Teams

受講生：70名(薬学生56名)

2023年2月17日に薬学部5年生を対象として「けっこういいぞ！！NHO 徹底解剖 国立病院機構で働く病院薬剤師」と銘打ってオンラインセミナーを開催しました。「国立病院機構の組織」「病院薬剤師」について具体的にイメージすることができるよう、管理職として指導・育成に注力している薬剤師やチーム医療で活躍する薬剤師、若手薬剤師の働き方について国立病院機構東海北陸ブロックで活躍している5名のシンポジストから国立病院機構と病院薬剤師の魅力について紹介いただきました。シンポジウム後はパネルディスカッションの時間を設け、事前にセミナー参加者より集めた質問に対して、座長進行のもとシンポジストからリアルな内容で回答しました。

初めての試みでしたので開催方法から宣伝方法まで苦悩した点が多く、多くのTHP会員をはじめ、東海北陸グループ、部科長協議会のご支援とご協力のもと、教育研修委員会のコアメンバー内で念入りに検討を重ねました。その中で、薬学生に知ってもらうための宣伝方法に大変苦慮しましたのでご紹介したいと思います。薬学生にどうやれば興味を持ってもらえるか題名の選定から始まり、様々な方面から検討を繰り返した結果、インパクトのあるポスターを完成させ、全国の薬学部を有する77大学やTHPで病院実習を行った薬学生を中心に配布しました。その成果もあってか、平日夕方の開催にも関わらず70名(うち薬学生56名)に応募いただき、国立病院機構本部薬事専門職や他グループの専門職、薬剤部科長にも見学希望をいただけるような大盛況なセミナーとなりました。今回のセミナーを受講いただいた方を対象にアンケートを実施しましたので、結果より今後も「国立病院機構で働く病院薬剤師」に興味を持っていただけるような企画を盛り込んだセミナーを開催していきたいと考えています。

けっこういいぞ！！
徹底解剖！
国立病院機構で働く病院薬剤師

薬学生参加者大募集！！
応募はこちら

国立病院機構 東海北陸グループ
薬学生向け オンライン説明会

2023年
2/17(Fri)
17:30-19:00

★タイムスケジュール
17:30 セミナー
18:30 パネルディスカッション

問い合わせ先
国立病院機構 静岡医療センター
国立病院機構 静岡医療センター 薬事科
TEL：053-777-9000

主催：東海北陸国立病院薬剤師会 教育研修委員会

第1部 セミナー

パネリスト紹介 矢野 涼子 井上 裕典

- ① 就職1年目のリアル
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター
小崎 華
名城大学出身(2022年)
- ② 就職2年目でNSTに所属して
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
橋本 直
鈴鹿医科大学出身(2021年)
- ③ 富山病院での活動から学位取得まで・現在の学術活動
独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター
座光寺 伸幸 Ph.D(薬学)
富山大学出身(2013年)
認定実務実習指導薬剤師
- ④ ICT活動、認定取得展望 ワーク・ライフ・バランス
独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター
小西 友美
名城大学出身(2007年)
医療薬学専門薬剤師
- ⑤ けっこういいぞ！NHO薬剤師
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター
吉田 知由
明治薬科大学出身(1988年)
日本糖尿病療養指導士

第2部 パネルディスカッション

配信方法 Microsoft Teamsを用いた講義形式
※参加にマイクが必須です。
※1月下旬にInvitation Mailを送付予定です。
届かない場合は静岡医療センター 薬事科まで
fukami.kazuhiko@vz@nho.nhs.go.jp
ご連絡ください。

参加方法 Webで申込み
QRコードもしくはURLに
アクセスして参加の申込みを
お願いします。
<https://forms.gle/WZa8DpuV1PXo459>



2022年度 第1部セミナー風景

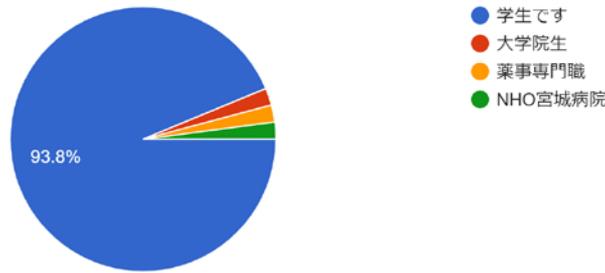


2022年度 第2部パネルディスカッション風景

参加者アンケート結果

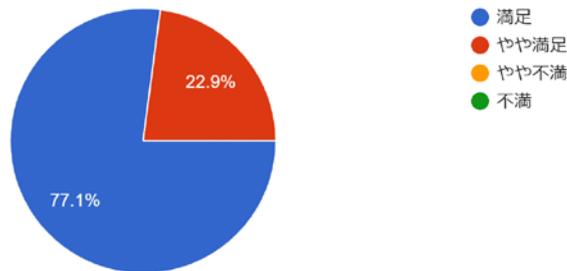
現役学生ですか？

48 件の回答



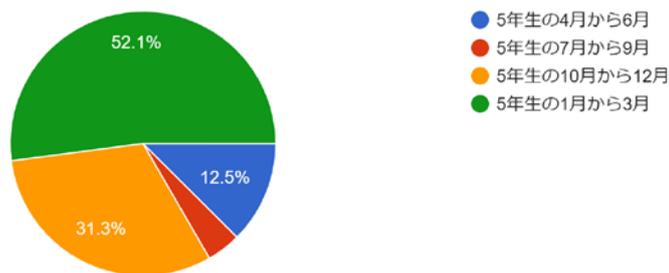
「けっこういぞ！NHO ～徹底解剖！NHO薬剤師～」の満足度を教えてください

48 件の回答



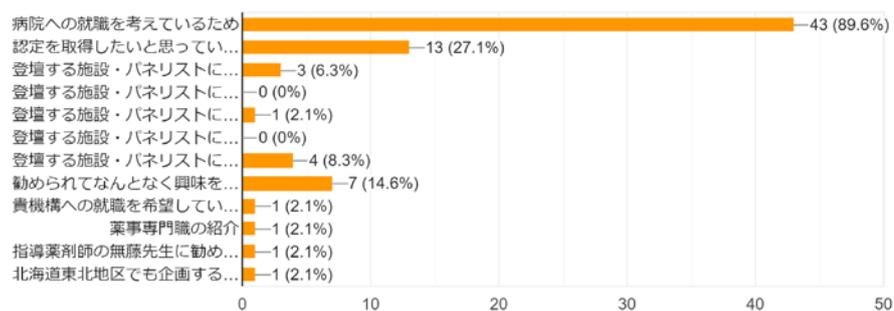
開催時期はいつ頃が適切ですか？

48 件の回答

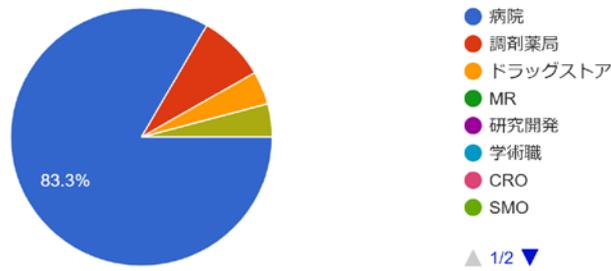


「けっこういぞ！NHO～徹底解剖！NHO薬剤師～」に参加した理由として近いものを教えてください

48 件の回答

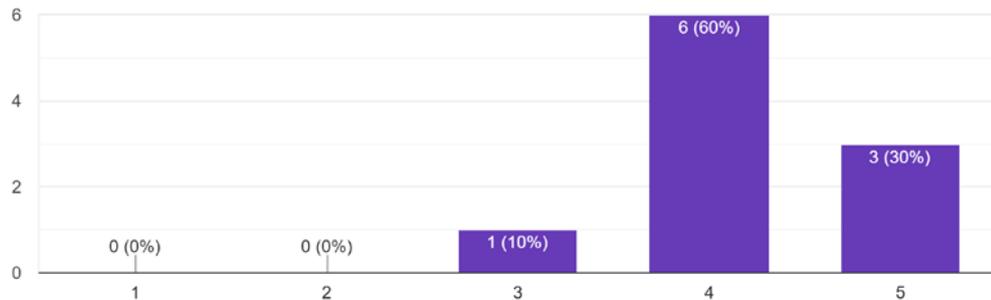


ご自身の現時点の就職先志望業界を第一志望～第三志望まで教えてください【第一志望】
48件の回答



タスク対象アンケート

本研修会全体に関する評価はどの程度ですか？
10件の回答



今後、このような研修会を行うことについて、どう思いますか？
10件の回答



今回、回答いただいた48名のうち46名(95%)が現役学生もしくは大学院生でした。満足度は受講生、タスクともに全体的に高く、開催時期については5年生1月から3月と今回の開催時期を適切とする意見が5割、5年生10月から12月頃が3割でした。今回のセミナーへ参加した理由として「病院への就職を考えているため」や「認定を取得したいと思っているため」が多く挙げられていました。また、現時点での回答者の就職先志望業界の第一志望は病院が8割を超えており、病院への就職希望がある学生が本セミナーに参加していただけたものと考えられました。また、タスクアンケートでは、THP教育研修委員会だけでなく、THP全体として行うべきという意見を多くいただきました。

アンケートの結果より、本セミナーは病院を志望している学生に対して非常に好評であり、ニーズが高いことがわかりました。そのため、来年度も継続して実施を検討していきたいと考えておりますが、開催体制や開催時期については、マンパワーの問題やリクルート解禁の時期との兼ね合いもあるため、更なる検討が必要であると考えられます。タスクアンケートにもある通り、内容的にTHP全体、また、NHOの課題として検討する必要であると考えられるため、今回、ご協力いただきました東海北陸グループや部科長協議会、THP他委員会と開催方法や体制について検討を進めていきたいと思っております。また、開催時期については、今回の2月開催で希望に即してはいますが、10～12月の希望もある程度あるため、年2回の開催や録画した動画のオンデマンド配信などを検討していきたいと思っております。

業務推進委員会活動報告(令和5年3月)

業務推進委員会委員長
井上 裕貴

業務推進委員会は、今年度より新しい体制で活動して参りました。以前からの活動を継続的に引き継いでいくことと委員のみなさま全員で参加できるような体制作りを試みました。研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。

今回は2022年10月から2023年3月までの各小委員会からの活動報告をさせていただきます。

《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	井上 裕貴(名古屋医療センター)
副委員長	田淵 克則(金沢医療センター) 後藤 拓也(名古屋医療センター) 山内 貴子(名古屋医療センター)
小委員会 コアメンバー	青木 まりあ(長寿医療研究センター) 安藤 舞(名古屋医療センター) 安達 尚哉(富山病院) 稲垣 雄一(榊原病院) 加藤 雅斗(長寿医療研究センター) 酒谷 健斗(北陸病院) 竹田 あかね(名古屋医療センター) 藤居 昂生(金沢医療センター) 細江 慎吾(豊橋医療センター) 森下 拓哉(金沢医療センター)

◆業務向上小委員会◆

① THP THE プレアボイド大賞 WG

小委員長:安藤(名古屋医療センター) 酒谷(北陸病院) 竹田(名古屋医療センター)

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2022年11月より、第4回 THP THE プレアボイド大賞にむけて各施設に事例を募集させていただきました。現在、各施設からの事例収集が終了して評価委員による評価中です。次年度の THP 総会では、結果報告させていただきたいと思っております。

◆業務改善小委員会◆

① 働き方改善 WG

小委員長：細江（豊橋医療センター）、加藤 雅斗（長寿医療研究センター）

この WG では、家庭を持った女性薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容を THP 会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

「NHOママ薬剤師(Pharmama)に聞く Vol.7」を作成開始いたしました。次年度の THP 総会前に発刊予定です。

Vol.1～6 については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

また、次年度は THP 会員に向けてのアンケートを予定しております。ご協力をお願いいたします。

② QC 活動 多施設共同 QC

担当：中村（長良医療センター）

業務推進委員会では QC 活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていましたが、今年度は QC を体験し自ら QC を実施しようと思えるきっかけを作るため、また他施設の仲間と知り合うために、一つの QC テーマを多施設で行うことを企画しました。

テーマは「薬品の使用期限管理」をテーマに活動を準備中です。参加施設募集を行い、問題点の共有、対策実行、対策の評価を行う予定です。

10 月より QC チームの参加募集を行い、まずは各施設で医薬品の使用期限管理をどのように行っているか現状把握を行うために、THP 全施設にアンケートを行いました。

アンケートの概要は以下の通りです。

東海北陸国立病院薬剤師会 業務推進委員会

QC 活動 ぶきつちよこの指とまれ「医薬品使用期限管理」

【使用期限管理状況に関するアンケート調査】概要

担当：伊藤朱里、矢野涼子（医王病院）、中村曜子（長良医療センター）

調査対象：東海北陸国立病院薬剤師会に所属する施設（20 施設）

医薬品使用期限管理を主に担当している薬剤師（各施設で代表 1 名が回答）

アンケート調査依頼日：2022 年 12 月 13 日

依頼方法：薬剤部科長、施設委員宛にメールで調査依頼

実施方法：Google フォームを用いてアンケートを作成

回答締切：2023 年 1 月 16 日（回答期間は 1 カ月）

最終回答数：19 施設

調査項目内容：

1. 医薬品の使用期限確認の間隔

2. 使用期限管理は主に誰が行っているか。何人で担当しているのか。
3. 1人当たりの1か月間の期限管理に要する時間
4. 確認した使用期限の記録方法
5. 納品時の使用期限の確認の有無とその確認方法
6. 期限が切迫している医薬品がある場合、薬剤部（科）内での情報の共有や啓発を行っているか
(ア) 情報共有や啓発はどのように行っているか
7. 期限が切迫している医薬品がある場合、院内での情報の共有や啓発を行っているか。
(ア) 情報共有や啓発はどのように行っているか
8. その他、期限管理に関して「何か工夫していること」や「他施設に向けて勧めたいこと」

③ THP 第一回 MBTI 研修会(業務推進委員会との共催)

小委員長: 井上(名古屋医療センター)、平島(静岡医療センター:教育研修委員会)

今年度は、MBTIは人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。外部委託研修として開催し、MBTIの認定ユーザーである国立がん研究センター中央病院の大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。これらの作業を通して、自分と他者との考え方やものとりえ方が明らかに違うことを体験することができ、非常に興味深い発見がありました。1月の金沢開催のMBTI研修会では10年に1度の寒波の影響で大雪となり、開催が危ぶまれましたが、無事に開催することができました。久しぶりに現地で顔を合わせてできる研修会は何とも言えない感動があり、得られるものが大きな研修となりました。

また、本研修の継続について検討するために、受講生に対して受講前、3か月後、6か月後にNHO-PADから項目を抜粋して作成したアンケートを実施しました。今後は開催場所・時期・頻度、対象となる受講生について検討を行いたいと思います。

・THP 第一回 MBTI 研修会 概要

2022年10月1日(土) 10:00-17:00

名古屋医療センター 第一会議室 11名参加



・THP 第二回 MBTI 研修会 概要

2023年1月28日(土) 10:00-17:00

金沢医療センター 第一会議室(現地開催予定) 9名参加



◆業務共有小委員会◆

① 薬薬連携 WG

小委員長:森下(金沢医療センター)、青木(長寿医療研究センター)

今年度は、がん分野の連携充実加算をテーマに、各施設の取り組み内容について情報収集を行い、HPに掲載させていただきました。

THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

※名古屋医療センター、三重中央医療センター、静岡医療センター、豊橋医療センター、長良医療センター、金沢医療センター の6施設にご協力いただきました。ありがとうございました。

② チーム医療

小委員長:田淵(金沢医療センター)、井上(名古屋医療センター)

2022年度のチーム医療担当者名簿を作成し、9月に会員の皆様に配布させていただきました。

2023年度も作成予定です。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでもTHP会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときにHPをご覧ください、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2023年2月14日

令和4年度後期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本吉章

1. 第4回 THP 合同症例カンファレンス

日時：2022年12月13日（火） 17時30分～19時00分

発表形式：Zoomによる口頭発表

座長： 名古屋医療センター 近藤芳皓 先生

1. 子宮全摘出術中の血圧反転にアドレナリンの関与が疑われた1例
名古屋医療センター 薬剤部 山本 智子 先生
2. 「脳神経外科病棟において、簡易懸濁が不適な薬剤に介入した症例」
豊橋医療センター 薬剤部 中尾 友紀 先生
3. 「再発難治性の ALL に対するビーリンサイト投与において好中球減少を経験した一例」
名古屋医療センター 薬剤部 亀井 裕明 先生
4. 「サクビト rilバルサルタン服用中の患者でカルペリチドを併用したことにより、尿量増加を認めた一例」
三重中央医療センター 薬剤部 築川 樹 先生
5. 「OLS 介入患者におけるポリファーマシーの取り組みについて」
金沢医療センター 薬剤部 樋口 聖 先生
6. 「診断・治療に難渋したクリプトコッカス脳炎の一例」
名古屋医療センター 薬剤部 梅橋 梨永 先生

2. 令和4年度東海北陸国立病院薬剤師会 研究討論・発表会

日時：2023年2月4日（土） 13時00分～15時00分

開催場所：名古屋医療センター 第1会議室（外来管理診療棟 5F）+Zoom

（ハイブリット開催）

参加者：66名

2-1. プログラム：

座長： 三重中央医療センター 山本 高範 先生

研究討論 日常臨床の疑問を PECO 形式で発表

1. トルバプタンの内服により高Na血症をきたす原因、患者背景の探索
静岡医療センター 薬剤部 今井 大貴 先生
2. 進展型小細胞肺癌におけるICI+化学療法 of 検討
金沢医療センター 薬剤部 山田 桃子 先生
3. 脳卒中後けいれんに対する抗てんかん薬の選択について
金沢医療センター 薬剤部 橋本 叡 先生
4. ARNIによる血圧低下をきたした心不全患者に対する薬剤選択と予後
名古屋医療センター 薬剤部 野崎 里紗 先生
5. リファンピシン、クラリスロマイシン併用時における他剤への影響
名古屋医療センター 薬剤部 小崎 華 先生
6. エピルピシンによる血管炎対策に関する検討
豊橋医療センター 松本 麻希 先生

学術研究発表

7. 新生児科退院児への訪問薬剤管理指導実施薬局へのアンケート調査
三重中央医療センター 薬剤部 八杉 美咲 先生

2-2. 演題賞

1) 特別賞

三重中央医療センター 薬剤部 八杉 美咲 先生



会場風景（名古屋医療センター）

後期活動の統括

12月に第4回目の症例カンファレンスを行った。6症例の発表があり活発な討論が行われた。例年医療薬学会年会開催日に行っていた研究討論会はコロナ禍により延期を余儀なくされ、研究発表会と同時開催とした。PECOに関しては6題の発表があり、次年度の全国学会への発表に発展を期待したい。学術研究発表のエントリーは1題のみであったが、その栄誉を称え八杉に特別賞をお贈りした。今回、初めてのハイブリット開催を企画したが、トラブルなく閉会することができた。

学会発表数が年々減少しており、若手のモチベーション向上と次世代の研究リーダーの育成が急務である。今後も研究活動を通じ、会員のプレゼン力、文章力、実行力、遂行能力など研究スキル向上を目標に努めていく所存である。

編集後記

Vol.29 を発行します。

巻頭言の冒頭にバックナンバーの話題がありましたが、THP 会誌は年 2 回発行し 10 年分ほどホームページに保管されています。過去の巻頭言だけではなく施設紹介などでもお世話になったことのある先生方の写真や建て替え前の薬局内の写真など懐かしく感じるものがあります。お時間があるときには是非ご覧になって下さい。

話しが少し変わってしまいますが、THP ホームページには担当者が自由にファイルの登録や修正ができない部分があります。管理会社へ有料で最新の情報に書き換えを依頼することになるのですが、今回各委員会ページをリニューアルしましたのでこちらの方もご覧になって下さい。